三桜工業株式会社

株主通信

2024.4.1 ▶ 2025.3.31

証券コード 6584

トップメッセージ

先行き不透明な状況下においても全社一丸となり、新たなイノベーションに挑戦してまいります



2024年度の営業概況

当社グループを取り巻く世界経済は、原材料価格の高騰、エネルギー価格の高止まりおよび急激な為替変動に晒されており、さらに米国の関税政策の強化に伴ってサプライチェーンの不安定化が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が継続しています。

このような状況の中、当社グループの当連結会計年度の売上高については、北南米における日系取引先の好調な販売および円安による為替換算影響により、1,595億38百万円（前期比1.7%増）と増加しました。

利益については、中国における日系取引先の販売減による付加価値減、日本における人件費の増加に加え北南米における一時的な費用の計上により、営業利益は48億60百万円（前期比39.7%減）、経常利益は46億円（前期比37.0%減）と減益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益を特別利益に計上するも経常利益の減少に加え、減損損失および特別退職金の計上により、7億37百万円（前期比82.5%減）と減益となりました。

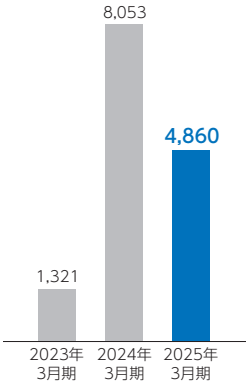
連結決算ハイライト（単位：百万円）

決算の詳細については当社IRサイトをご覧ください。▶

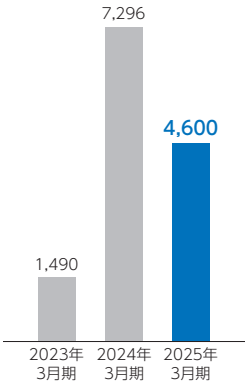
売上高



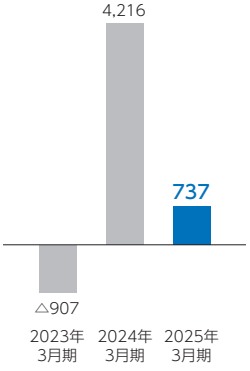
営業利益



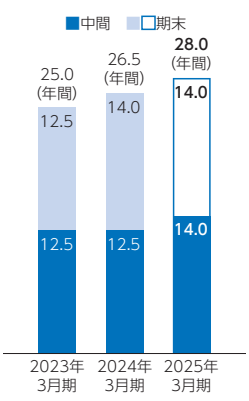
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益または純損失



1株当たり配当金（単位：円）



2030年度を見据えた対策

当社は、不確定要素の多い経営環境においても、自己変革のDNAを基に、お客様から常に信頼され、選ばれる、利益を創出し続けられる会社となるべく、新・中期経営方針で据えた2030年度のゴールとさらにその先に向けて、以下の課題に取り組んでおります。

● 自動車部品事業における取り組み

自動車部品事業につきましては、サンオー・ラストマン・スタンディング戦略（残存者利益獲得戦略）を遂行し、2030年度までに自動車配管市場でグローバルシェアNo.1を目指します。

一時期強まりを見せた電気自動車（BEV）シフトが減速し、HEVやPHEVへの見直し機運が見受けられます。市場ニーズの不透明な動向にも対応できるよう、重要保安部品をグローバルで供給し続けてきた高いQCD（品質・コスト・納期）を基に、高品質・高付加価値の製品を提案・供給します。

サンオー・ラストマン・スタンディング戦略において、グローバルの競合先が内燃機関ビジネスに消極的な姿勢を見せている中で、最後まで市場に踏みとどまることで市場占有率を上昇させ、価格決定権の確保を目指しております。成果は着実に現れており、特に米州や欧州で市場シェア拡大につながっています。

また、既存の生産ラインの更新投資を行い、生産機能の強化、製品の品質向上、働き手不足の時代に対応した作業者への負荷低減を兼ね備えた生産現場の実現を進めています。いわゆるトランプ関税を不安視する北南米においても、好調な市場環境や競合先からの転注増を背景に、インオーガニックなアプローチも含めた生産機能の向上を実現させてまいります。なお、中長期的にはBEVが主流になる見通しであるため、BEVに搭載されるバッテリーやインバータ、コンピューター周りの冷却管理を担うサーマル部品の開発に注力し、試作受注や共同開発を進めている最中です。

● 新事業創出の取り組み

データセンター事業では、生成AI等の膨大な演算処理能力に比例して急増する消費電力や発熱に対するソリューションとして、高効率かつ省エネの水冷/液冷システム関連の製品群の展開を進めており、当社が自動車向け配管部品で培ってきた「漏れない」技術を活かしてさまざまなメーカー、事業者との協業や試作受注、営業・提案活動を行っています。

生産ソリューション事業では、DXや製造現場における自動化ニーズの高まりに伴って市場拡大が見込まれる生産設備分野において、自動車部品事業で培った生産設備の構築ノウハウを、社外の製造現場にも提供する事業として拡大中です。専任組織が発足し、他業種にも積極的にアプローチしています。

冷蔵庫向けワイヤーコンデンサー事業では、冷蔵庫の普及率が低いインドにて、市場の年間成長率約10%と高成長が見込まれる中、2024年に製造ラインの能力増強の投資を行うなど、現地における安定したチューブ供給能力確保と売上およびシェア拡大の実現を目指しています。

● サステナビリティへの取り組み

気候変動リスクに対しては、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同しており、同枠組に沿った開示を行っております。また、環境負荷低減への取り組みとして、より電力消費を抑制できる生産設備への更新を順次進めています。

ダイバーシティについては、さまざまなバックグラウンドを持つ従業員の多様性を活かし、自由な発想や価値観の化学反応から生み出されるイノベーションに期待し、安心して働ける職場づくり、事業活動を支える経営基盤である人財の育成を推進中です。女性役員の登用についても積極的に取り組んでおります。

地域社会に対しては、グローバルに事業を展開し、その多くで郊外に拠点を置いている当社にとって、地域に根を下ろして生活する人々との関係を築くことが事業存続に必須であると認識しています。本社工場がある茨城県古河市で自治体との包括連携協定を締結するなど、国内外で地域に根差した活動を推進するとともに、雇用の創出を通じた地域経済への貢献を目指しています。

当社は、変化を恐れることなく、グループ全従業員が力を合わせて、新たなイノベーションに挑戦してまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

COKOGA OFFICE 事業

所有施設である古河オフィス（茨城県古河市）を、シェアオフィス・コワーキングスペース・貸会議室「COKOGA OFFICE」としてリニューアルし、2024年5月より稼働を開始してから一周年を迎えました。

「COKOGA OFFICE」事業は、当社と茨城県古河市の間で締結した、地方創生に向けた包括連携に関する協定に基づいた取り組みとなります。多様な働き方推進の一助となることを目指し、キッズスペースを見守りながら働くことができるファミリーワーキングスペースなども設置しています。また、随時さまざまなイベントも開催しています。

「COKOGA OFFICE」webサイト ▶ https://cokoga-office.sanoh.com



COKOGA OFFICE（JR古河駅 徒歩3分）


ファミリーワーキングスペース


一周年記念イベントの様子

自動車部品事業

高い品質を生み出し、地球にも人にもやさしい生産ラインへ

主力製品となる自動車部品事業では、60年以上稼働を続けてきた生産ラインの見直しを進めています。生産機能の強化、製品の品質向上、働き手不足の時代に対応した作業者への負荷低減とCO_2削減を兼ね備えた生産現場を目指して、あらゆる角度からの取り組みを行っています。

主にブレーキ配管で使用されているダブルウォールチューブの製造ラインでは、ろう付けに直接通電加熱工法を用いることで、従来のガス雰囲気炉加熱工法と比べて電力消費の大幅な削減、品質向上に加え、少量多品種生産や需要変動などお客様のニーズに柔軟に対応することが可能となります。

樹脂製品の組立ラインでは、無人化に向けた取り組みを進めています。AGVやAMRを使った無人搬送の導入だけではなく、海外も含めた遠隔監視なども今後の課題とし、無線化を進めています。

このほか、検査工程におけるAIを使った品質検査機の導入など、さまざまな取り組みを行っています。



新事業

データセンター（DC）向け冷却装置の事業化に向けて

● データセンター向けの水冷/液冷式熱マネジメント製品「ボールバルブ継手」「シャットオフコネクタ」を新発売

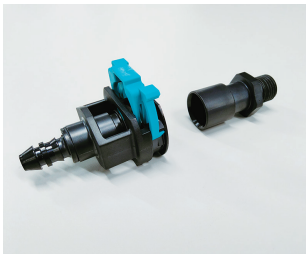
主にDLC（Direct Liquid Cooling，直接水冷・液冷）方式の冷却配管部において使用する部品「ボールバルブ継手」「シャットオフコネクタ」を開発しました。既に商品化している当社製品のマニホールド、クーリングプレート、樹脂配管などと組み合わせることで、水冷・液冷モジュール製品として、ワンストップで提供することができるようになります。いずれも、自動車の中でも重要保安部品と呼ばれるエンジン・ブレーキなど主要な部位を60年以上にわたり支えてきた当社のノウハウを活用した製品です。

ボールバルブ継手





シャットオフコネクタ

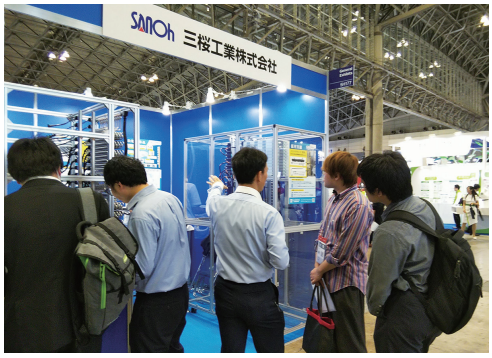




● データセンターの次世代技術の検証施設「Data Center Trial Field」の共同検証に参画

株式会社NTTデータと日比谷総合設備株式会社がデータセンター領域におけるコミュニティの拡大およびコラボレーションの促進と課題解決のための共同検証を行うことを目的に開設した、データセンターの次世代冷却技術を検証する施設「Data Center Trial Field」（千葉県野田市）に参画しています。現在、当社では、水冷、液浸のシステム構築・運用における、データセンター内の液体配管の液漏れのリスクに対応可能な「ボールバルブ継手」と各種インターフェイスを開発し、検証施設に常設しています。

● 各種展示会に積極的に参加



2024年10月15～18日、幕張メッセで開催された日本国内最大級のデジタルイノベーションの総合展「CEATEC 2024」に出展しました。

多くの企業がAI製品・サービスの展示を行う中、当社の展示は「AIの利活用における膨大なデジタルデータ処理に必要とされる大容量データサーバー」の関連製品を中心とすることにより、幅広い潜在顧客層に当社のデータセンター関連事業を知っていただくことができました。

その後も、中国最大級のデータセンター展示会「CDCE 2024」（2024年12月、中国・上海）、「Japan IT Week 2025 春展」（2025年4月、東京ビッグサイト）など、積極的に出展し、拡販活動を進めています。

第117期定時株主総会決議ご通知

2025年6月20日開催の第117期定時株主総会において、
下記のとおり報告および決議されました。

報告事項　1. 第117期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

2. 第117期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）計算書類の内容報告の件
本件は、上記1.および2.の内容を報告いたしました。

決議事項　**第1号議案　取締役9名選任の件**
本件は、原案どおり承認可決され、竹田陽三、竹田玄哉、佐々木宗俊、金子素久、森地高文、入山章栄、井澤吉幸、富岡さやかの8氏が再選され重任し、新たに中本浩寿氏が選任され就任いたしました。

第2号議案　監査役1名選任の件
本件は、原案どおり承認可決され、三輪はるか氏が再選され重任いたしました。

以上

会社情報／株式情報

会社概要（2025年3月31日現在）

商号	三桜工業株式会社 （登記社名：三櫻工業株式会社）
英文商号	Sanoh Industrial Co., Ltd.
本店	茨城県古河市鴻巣758番地
設立年月日	1939年3月24日
資本金	34億8,110万円
従業員数	7,748名（連結ベース）
主要製品	ブレーキチューブ、フューエルチューブ、フューエルインジェクションレール、スチールチューブ製品および樹脂チューブ製品、クイックコネクター、シートベルト用バックル・ショルダーアジャスター、設備等

役員（2025年6月20日現在）

取締役会長	竹田　陽三	取締役（社外）	入山　章栄
取締役社長	竹田　玄哉	取締役（社外）	井澤　吉幸
取締役	中本　浩寿	取締役（社外）	富岡 さやか
取締役	佐々木 宗俊	常勤監査役	三輪 はるか
取締役（社外）	金子　素久	監査役（社外）	平石　智紀
取締役（社外）	森地　高文	監査役（社外）	古川　絵里

株式の状況（2025年3月31日現在）

発行可能株式総数	144,848,000株
発行済株式の総数	37,112,000株
株主数	20,212名

大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,489	9.59
神鋼商事株式会社	2,212	6.08
本田技研工業株式会社	2,000	5.50
スズキ株式会社	1,600	4.40
有限会社竹田コーポレーション	1,500	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,419	3.90
株式会社常陽銀行	1,243	3.42
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	922	2.53
アルコニックス株式会社	780	2.14
個人株主	514	1.41

（注）持株比率は発行済株式の総数から自己株式（717,725株）を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電　話　0120-232-711（通話料無料） 郵送先　〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.sanoh.com/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。
未払配当金の支払い	三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。 電　話　0120-232-711（通話料無料）

Webサイトのご案内

当社Webサイトでは、企業情報や財務情報、サステナビリティ、製品、最新トピックスなど、当社をよりご理解いただくための情報を発信しております。IR情報のページでは、決算説明会の動画配信なども行っておりますので、ぜひご覧ください。

https://www.sanoh.com/

右記のQRコードからもアクセスできます。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

SANOH

本社工場　〒306-0041
茨城県古河市鴻巣758番地
TEL：0280-48-1111

東京本社　〒150-0002
東京都渋谷区渋谷三丁目10番13号
TEL：03-6879-2622

GREEN PRINTING JFPI P-A10007

UD FONT

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK